



令和3年度 東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

北区教育ビジョン 2020 の人間村長の精神を基調とし、
心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和4年1月 第10号

校長 阿久津 光生

〒114-0004

東京都北区堀船 2-23-20

Tel 03-3911-8817

《新年あけましておめでとうございます》

新年あけましておめでとうございます。昨年中は、地域・保護者の皆様には、コロナ禍の中、多大なるご理解とご支援をいただきありがとうございました。本年も、教職員一同力を合わせて、子どもたちのため、地域のために全力で頑張ってお参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



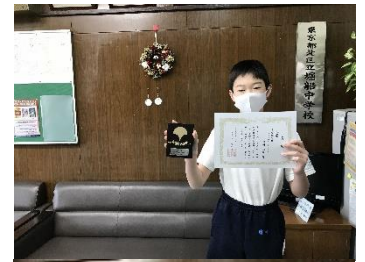
＜平塚神社落ち葉清掃ボランティア みんな頑張りました＞

12月25日(土)、平塚神社(JR上中里駅付近蟬坂上)の落ち葉清掃ボランティアを48名の生徒のみなさんが行ってくれました。生徒会役員が、生徒会の自治活動として地域ボランティアの呼びかけをしてくださいました。それに促されて多くの生徒のみなさんが快く参加してくれることになり、大変ありがたく思います。地域のために貢献しようとするその心意気が、本当に立派だと改めて感じました。



＜祝 1年濱崎くん 東京都児童生徒発明くふう展 入選おめでとうございます＞

第64回東京都児童生徒発明くふう展において、夏休みの技術科の課題として1年生の濱崎くんの作成した「卓球練習機」が見事に入選しました(12月3日(金)～5日(日)に港区みなと科学館に展示されました)。入選受賞、おめでとうございます。



＜祝 1年田口さん 障害者週間ポスター標語 採用おめでとうございます＞

東京都全体で505編の応募作品があった令和3年度「障害者週間ポスター標語」において、厳正なる審査の結果、田口さんの作品「理解する そしてつながる 笑顔の輪」が採用されました。堀船中では、道徳科の授業の一環として人権について考えるとともに、標語を作成して応募しました。田口さんのまごころがこもった作品は、期間中、都内の公共交通機関・学校・公共施設等に掲示され、障害者週間をPRします。本当にすごいことです。おめでとうございます。



＜第40回北区立特別支援学級6校合同スポーツ大会が行われました＞

12月2日(木)に第40回北区立特別支援学級6校合同スポーツ大会が滝野川体育館で開催されました。実施種目は、ソフトバレーボールAと男女混合ソフトボールBでした。堀船中3組は浮間中と合同チームを組み、日頃の努力の成果を思う存分発揮していました。祝 三上くんが、MVP賞に輝きました。おめでとうございます。



＜ボランティア部のみなさんが堀船南保育園を訪れて、手作りのクリスマスプレゼントを園児のみなさんにお渡ししました＞

12月21日(火)放課後、ボランティア部のみなさんが、顧問の清水先生と堀船南保育園を訪れて、部員みんなで手作りしたクリスマスプレゼントを園児のみなさんにお渡ししました。園児達は嬉しさあふれる笑顔で、ボランティア部員のみなさんを玄関でお迎えしてくれました。プレゼントをお渡しすると、とっても喜んでくれました。そして園児のみなさんから、歌のプレゼントをしてくださいました。とっても可愛い笑顔で、一生懸命歌ってくれました。心温まる時間を共有できて、有り難く思いました。ボランティア部のみなさん、これからも堀船南保育園の園児のみなさんとの素敵な交流を頑張ってください。



<表彰>

◎第64回東京都児童生徒発明くふう展
「卓球練習機」 1年 濱崎くん (入選)
「ポイっとちりとり」 1年 鎌田さん
「太陽光オープン」 1年 重永さん
「多機能ともぞう!」 1年 田村さん
「手作りほうき・ちりとり」 1年 木村(陽)さん

◎12月19日(日)北区ジュニアバドミントン選手権(Kidacho)大会

【令和3年度北区ジュニアバドミントン選手権大会】

中学生男子二部 優勝 1年 中野くん、王くん
中学生女子二部 優勝 1年 山本さん、山添さん
3位 1年 斎藤くん、渡邊くん
中学生女子一部 準優勝 3年 熊谷さん、高橋さん
3位 3年 伊勢田さん、中野さん
3位 2年 吾妻さん、佐藤(麗)さん

◎北区バスケットボールジュニアカップ大会

優勝選手賞 1年 須田さん
1年 林(文)くん



<学生駅伝界の名将 東洋大学陸上競技部 長距離部門監督 酒井俊幸様の講演会を開催します>

1月28日(金)13時30分より、本校体育館で、学生駅伝界の名将、東洋大学陸上競技部長距離部門監督・酒井俊幸監督の講演会を開催します。

酒井俊幸(さかい・としゆき)監督は、1976年5月23日生まれの福島県出身。学法石川高校(福島県)、東洋大学経済学部卒業。大学時代には、箱根駅伝に3回出場し、キャプテンを務めました。1999年にコニカ(現コニカミノルタ)に入り、全日本実業団対抗駅伝三連覇に貢献。V2・V3のアンカーとして胴上げも経験し、コニカミノルタの躍進を支えました。2005年に退社後、母校の学法石川高等学校教諭として赴任し、陸上部顧問を務めた後、2009年4月より、32歳の若さで東洋大学陸上競技部長距離部門の監督に就任。就任1年目で指揮をとった箱根駅伝では、出場校の監督の中で最年少でありながらチームを優勝に導くという快挙を達成されました。その後もチーム育成に尽力し、出場した箱根駅伝の12大会で総合優勝3度、2位を5度、3位を3度獲得。学生三大駅伝(出雲、全日本、箱根)の全てで優勝を経験。実業団、教員の経験を生かした「チームづくり」「選手の育成」で、東洋大学を常勝チームへと導きました。

指導方針には「世界と戦える選手育成」を掲げ、ロンドン・リオ・東京五輪に代表選手を輩出しています。東洋大卒の設楽悠太は16年ぶりにマラソンの日本記録を更新し、同じく服部勇馬は東京五輪の代表を決めるマラソングランドチャンピオンシップにおいて準優勝、代表となりました。また、競歩でもリオ五輪の男子20km競歩で7位入賞を果たした松永大介や、ロンドン五輪の男子20km競歩に出場した西塔拓己、東京五輪の男子50km競歩の川野将虎など、世界レベルで活躍する選手達を多数育成されています。今年開催された東京五輪では、東洋大の現役学生とOBが合わせて8名も陸上競技に出場しています。このうち競歩を含む長距離部門の出身者は4名。競歩男子20kmでは、池田向希(旭化成)が同種目の日本勢として初の表彰台となる銀メダルを獲得し、50kmでは川野将虎(同)は6位入賞。男子マラソンの服部勇馬(トヨタ自動車)は73位、同10,000mの相沢晃(旭化成)は17位となりました。このように、酒井監督は教え子達を五輪に導き続けているのです。

3大会連続で「現役学生」を五輪に送り出すのは、指導者として素晴らしい快挙です。なぜ、これだけ続けて学生や卒業生を世界へ送り出せるのでしょうか。それは、世界を見据えた育成法の実践といった技術的なことはもちろんですが、酒井監督の指導の根幹にある、競技力だけではない、人間としての成長を重視する姿勢にあるのではないのでしょうか。選手の心に響く「言葉」をちりばめた人間教育こそ、酒井監督の真骨頂だと言えます。私も、今回の講演にあたり、東洋大学川越キャンパスの陸上部の寮を訪問させていただき、監督にご挨拶をさせていただきました。寮内は驚くほど床が輝いていて、清掃が行き届いていることが瞬時に分かりました。玄関には、部の指針やチーム理念を記した紙が掲示されています。「競技・集団生活を通じての心身成長」が大目標として掲げられ、「文武両道」「礼を正し、場を清め、時を守る」「互いの尊重と個の自立と自律」といった数々の言葉が、寮を出て練習に向かう選手達の背筋を伸ばすのです。酒井監督がしっかりと「言葉」で指針を示して、チーム全員がそれを共有するという姿勢が、至るところに見受けられました。酒井監督の著書の題名にもなっている「その1秒をけずりだせ」は、まさに東洋大学陸上競技部長距離部門の精神そのもののものです。



【主な著書】

『その1秒を削りだせ』～駅伝・東洋大スピリッツ～ ベースボールマガジン社

『怯まず前へ』～常に結果を出し続けるチームと強い心の作り方～ ベースボールマガジン社

本校の図書館にもありますので、ぜひ読んでみてください。酒井監督の誠実な生き方・人間力にとっても感動します。